

MARITIME INTERNATIONAL 2018 第2号 平成30年12月22日

〈東京都立大島海洋国際高等学校 TEL:04992-4-0385 FAX:04992-4-1764〉

メールアドレス: kaikoku@section.metro.tokyo.jp

HP アドレス: <http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/index.html>

新大島丸建造委員会発足

現大島丸進水式(平成7年12月22日)



平成30年10月都議会において大島丸代船建造が可決され、造船所との打合せが始まりました。新船は24年ぶり、第5代目大島丸となります。

第1回 平成30年11月1、2日

第2回 平成30年11月28日

第3回 平成30年12月22、23日

第4回 平成31年1月予定

建造工程は、平成31年1月までに設計、主要艀装品の発注などを終え、2月から船体加工の開始となります。9月上旬に新潟で進水、平成32年2月に波浮港での竣工予定です。(副校長 山室 俊浩)

海国祭

平成30年9月22日カッターレース大会に引き続き9月23日、24日に海国祭を開催しました。今年度も多くの大島町の皆様、本校保護者に御来校頂き、2日間で延べ来場者数は821名と盛況のうちに閉幕しました。有志団体部門の優秀賞は「生物部」、最優秀賞は「音楽部」。HR部門では優秀賞3年A組劇「グレイテスト・ショーマン」、最優秀賞は3年B組映画(食品)「ポップコーン映画」でした。



上/下・カッターレース



郷土芸能部



3A



生物部



3B

また、図書委員会の古本市では売上金82,950円を今年は大島町立第二中学校と平成30年北海道胆振東部地震災害義援金として寄付しました。ボランティア部の販売品売上げ78,852円を北海道胆振東部地震災害義援金、平成30年度7月西日本豪雨義援金として寄付しました。(生活指導部・理科 新井 壮)

大島近海での鯨類調査



11月17、18日に、東京海洋大学鯨類学研究室と本校生物部2名と本校ボランティア部6名による共同調査を本校小型実習艇「みはら」を活用し実施しました。前日に大学生からクジラの種類や観察方法（クジラの呼吸の際の噴気や大きさ、姿）について講義を受けました。17日は午後1時30分からの調査で、波浮港を出港し大島を右回りに一周する航程です。予報に反し当日は晴れて暖かく、波浪も1m弱と良いコンディションでした。生徒は波による船の動揺や、海上から見る大島の風景を楽しんでいました。調査も終盤になりかけた時、大学の先生方が

野田浜沖で、2頭のザトウクジラを発見しました。しばらくその場に留まってその姿を観察しました。しかし、なぜか噴気はせずに姿が見えてもすぐに海中に潜ってしまい、うまく写真撮影はできず、姿を確認できなかった生徒もいました。

翌日は、前日とは打って変わり、天気は曇り、また北東から強い風が吹いていたため大島の西側半分程度、予定の1/3の時間しか船を動かさず、鯨は見られませんでした。

大島近海のクジラは、マッコウクジラやツチクジラ等様々な種類を1年中見ることができます。私は、3年ぶりにクジラを一瞬だけ拝めて大変感動しました。この活動は、生徒の海洋・海洋生物の理解に大変役立ちます。大学の先生によれば、この時期に大島沿岸でザトウクジラが見られるのは珍しいとのこと。



(進路指導キャリア教育部・水産科 倉澤 聡)

高大連携特別講義(1年生対象)

12月6日(木)午後、東京海洋大学海洋環境科学部の長井健容先生に、先生のキャリア、現在の研究テーマ等について御講義頂きました。

中1時代、卓球部でのんびりしていたら2年で急に厳しい要求をする顧問になり生活がガラッと変わったこと。頭髪は5厘刈りで練習は朝から晩までやらされた割に大会で優勝できず散々だったこと。

ただ、振り返ると「やらされているうちはダメ」が口癖だった顧問の下、規律と訓練を継続した結果、勉強することが苦でなくなり、成績が上昇し市内の進学校に入学できたこと。(この部分、皆さんにとって重要な話だったのではありませんか。学校・寄宿舎・部活動・船内生活と共通していませんか。)高校時代は、受験勉強に意義を感じられず一浪した後、海洋を学ぶ大学に入学したこと。このきっかけは石油タンカーの船長を務めたお父さんの影響で、お父さんから贈られた「Seaman」としての素晴らしいエピソードが紹介されました。それは、30年前お父さんが一等航海士だった頃、グアム沖の台湾船が火災事故に遭ったことを航行中にe-mailで知り、船長に代わり操船指示を出しながら暗闇の中何とか海上に浮いていた人命を救ったことです。



また、海洋物理学の話ではかなり高度な専門用語や数式が展開されました。先生が博士課程時代に初めて留学したカナダのヴィクトリア大学、その後ボストン近郊のダートマス大学、UCLA では教わっていた教授が自身のキャリアのために転職する光景に遭遇するなど貴重な海外留学経験についてのお話を聞けました。将来研究留学するつもりなら、「研究留學術」というタイトル本がお勧めとも。

最後は、ご自分の研究として「乱流」とは何か、日本近海でその乱流が最も強く、CO₂ の吸収に関連する場所を探してデータ収集しながら研究されていること。

全体のまとめとして；

- ①自分のキャリア形成は、物事をやらされるのではなく、目的を持って取り組むことが大切
- ②自分の興味ある分野を持てば、その道のトップの人を訪問・相談することでなにがしかの刺激を受けられる。その場所は日本だろうと海外だろうと構わない
- ③高校時代は、自分を諦めないで物事をやり抜く心が大切。学生の時が一番学ぶ時間がある
- ④大学はゴールではなく、人脈とキャリアと機会を提供する場である

(進路指導・キャリア教育部・水産科 倉澤 聡)

宿泊防災訓練(1年生対象)

10月12日(金)放課後から13日(土)朝にかけて、宿泊防災訓練を実施しました。今年度も防災に関する公的機関に協力いただき、大島町役場の方には防災講話を、大島町消防署の方々には初期消火訓練や心肺蘇生法などの実習をしていただきました。また、今年度初めての試みとして、学校所有の濾水器を動かしてプールの水から飲料水を作るといった作業を体験しました。他にも夕食や朝食としてアルファ化米や乾パンを食べたり、教室に毛布を敷いて寝たりと、災害時の避難所を想定した生活体験をしました。



濾水器体験

うな生活になるのか、また避難所で『高校生として何ができるのか』といったことを考えるきっかけにもなり、1泊2日ではありましたが大変貴重な体験をすることができました。



AEDによる心肺蘇生訓練

(第1学年主任・保健体育科 増子 良太)

留学生紹介

9月1日よりニュージーランドから留学生 Ms. Chen Rachel さんが本校の仲間になりました。1年B組で、ほぼ全ての授業に参加しています。とても勤勉なレイチェルさんですが、英語はもちろん日本語も話すことができ、先生の指示や友だちとのおしゃべりなどを全て日本語で理解することができます。日本語力の高さに驚いて尋ねると、母国で日本語検定1級を取得したとか・・・。

最近の定期考査では全教科の問題を解き、国語、特に古典で担当の先生がびっくりするほど大変優秀



な得点を取りました。11月13日には大島第三中学校で、中学生向けに進路講演会で講師を務めています(本校ホームページに記事あり)。学校生活でも好奇心旺盛で様々なことにチャレンジしています。いろいろな部活動を見学し(最終的に生物部に入部)、2、3年生の授業に参加し、保育園のボランティアに参加したりと積極的に活動しています。

学校外での様子を聞くと、長期休業に本土のホストシスター(本校卒業生)の家に泊まり、原宿、立川、川越、浅草、東京スカイツリー、横浜等、たくさんの場所に連れて行ってもらったようです。浅草の浅草寺では自作の御朱印帳を持参し、御朱印もいただいたそうです。また、日本のアニメが大好きで、12月にはコミケに行くことを楽しみにしているそうです。あっという間に時は過ぎ、もう残りの滞在期間は1ヶ月と少しになりました。レイチェルさんは1月末日に大島を出て母国に帰ります。学校生活、大島、日本の思い出をできるだけ

沢山持ち帰ってもらいたいと願っています。

(進路指導キャリア教育部・英語科 吉岡 穰)

チーム大島！

私たち大島海洋国際高校サッカー部は、現在部員不足に悩まされています。

今年度、3年生が引退してからは1年生部員5名のみとなり、自チームだけで大会に出場することができません。しかし、部員不足というのは今に始まったことではありません。3年目の現顧問が、これまでお会いした海国サッカー部OBの話を聞くと、部員が3人しかいない時期もあったとのこと。

部員が少ないから濃い内容の練習ができないのか？部員が少ないから上手くなれないのか？部員が少ないから試合に勝てないのか？

そんなことはありません！部員が少ないからこそ細かい技術まで磨くことができる！部員が少ないからこそより多くボールを蹴ることができる！部員が少なくとも個々の力では勝つことができる！

今年度からは合同チームでの出場も認められ、私たちは大島高校サッカー部と合同チームを編成し大会に臨みました。合同練習では、大島の中学生や社会人チームの方々にお手伝いをいただき、伊豆大島のサッカーファミリーで切磋琢磨しています。今年度出場した3つの大会では残念ながら勝利できませんでしたが、「チーム大島」は始まったばかり。もちろん人数が揃えば自チームで参加することとなりますが、島内で合同練習や練習試合をしていくことには変わりありません。

我々、大島海洋国際高校サッカー部は今後も「チーム大島！」の合言葉を胸に日々活動に励んでいきます。そして、勝利という形で日頃からご支援いただいているご家族の方々や、日頃お世話になっている大島の方々へ恩返しをしていきます！(サッカー部顧問・保健体育科 古川 勝也)



チーム大島



合同練習の様子



高校選手権大会